

## 武蔵野市第六期長期計画策定委員会（第4回）

日 時：平成30年9月28日（金） 午後7時～午後9時2分

場 所：市役所西棟4階 412会議室

### 1. 開 会

### 2. 議 事

#### （1）今後の検討スケジュールについて

企画調整課長が、議題の内容及び資料1「第六期長期計画 検討スケジュール（案）」について説明した。

【A委員】 市民委員は担当分野がないが、なるべく多くのプロセスにかかわりながら一緒に考えていきたい。集まりがあるときには可能な限り参加したいので、時間等を教えてほしい。

【企画調整課長】 市民委員と副市長には、策定委員会と作業部会にかかわっていただくことを考えている。また、担当分野のある方とは電話やウェブ会議でのやりとりを予定しているが、会合がある際は、極力日時・場所をお伝えする。ただ、予定が合わないこともあり得ることをご承知おきいただきたい。

#### （2）市政の課題について（公共施設等総合管理計画の概要について）

事務局が、資料「武蔵野市公共施設等総合管理計画 概要版」について説明した。

【B委員】 4ページ「長期財政予測」では、平成37年から財源が不足して、基金の取り崩しが始まっている。武蔵野市は、人口が増えているにもかかわらず、基金の取り崩しが必要になるほど財源不足が深刻化すると予測している。この要因は何か。

【総合政策部長】 今後、中長期的に伸びていく公共施設等の再整備に係る投資的経費の著しい伸びが最大の要因である。それに加え、全体の人口は微増傾向だが、生産年齢人口が伸びないことから、市税が伸びないことを前提にした。また、扶助費、物件費等の経常経費が伸びるシミュレーションをもとにしている。

【B委員】 次回、生産年齢人口を何%の減少で考えているのか、扶助費は何を見積もっているのか、物件費はどれだけインフレ率を見ているか、数字を教えてください。

【A委員】 人口は資料当時の推計よりも増えている。財政的には、市税収入と基金が従来の子測よりも増えて、市債が減っている。今後30年の財政的な見通しは、すでに現実と違いが出ている推計に基づいており、甚だ疑問だ。現時点では、もっと違うシミュレーション、見通しの立て方があるのではないか。

市民会議では、道路や公園など、計画されているものを全部つくればこの金額になるという話をされたが、実際には、計画されながら、長年着手もされないままのものがたくさんある。それらがどう推移するのか。きちんとまとまっていなくてもいいので、長期の財政予測など、さまざまなシミュレーションをお示しいただく必要があると思う。

また、公共施設と都市基盤に特化した計画なので、経常経費と呼ばれる部分、特に扶助費が増えるのをどう抑えていくのかも含めた財政計画を考えていく必要があると思う。

【総合政策部長】 討議要綱の作成に合わせて、財政の見通しをできる範囲でお示ししたいと考えており、そのときにまた議論していただきたい。

【B委員】 これは大事なことなので、委員会で少し議論したほうがいい。財政シミュレーションはあくまでもシミュレーションで、変数が非常に多いものである。

先ほどは、シミュレーションの前提は何かを質問したのであり、示されたシミュレーションが正しいかどうかという話ではない。さまざまなシミュレーションではなく、楽観シナリオと悲観シナリオ、そして中立シナリオをつくり、その後は、どのように財政をマネジメントしていくのかを検討したほうがいい。提示された長期予測のシミュレーションでは、武蔵野市は財政破綻してしまう。そうならないためのアプローチを考えていかないと、話は収れんしないと思う。

【C委員】 新しい人口推計は、2030年（平成42年）頃までは生産年齢人口が増え続けることを想定している。市民税納税義務者は平成28年、29年と増えており、個人市民税の納税義務者1人当たりの平均総所得金額は524万6000円と、多摩26市では突出して第1位となっている。武蔵野市を23区に当てはめると、8位ぐらいに相当する納税義務者1人当たりの総所得がある。まずはB委員のご指摘のように、現行のシミュレーションと根拠から、前回お示した人口推計なり財政の分析をもとにしたシナリオをつくり直さなければいけないと思っている。

私も、健康福祉部長時代、今の公共施設等総合管理計画の類型別の計画をつくったが、単に建物を建てかえるというだけのシミュレーションでいいのか、その施設に5年後、10年後、どのような機能を持たせて改築をしていくのか、施設のハードの問題とソフトの問題をセットで議論していかないといけないところがあり、極めて難しい議論になった。その前提となる財政シミュレーションの根拠と、今後我々が委員会の中であるべき姿をどこに持っていくか、順序立てて整理をしていく必要があると思う。

【委員長】 最も危機的な状況を想定して書いているが、楽観的なものもあっていい。詳細なシミュレーションよりも、比較になるものが1つあるとわかりやすいと思う。ご検討いただきたい。

### （3）長期計画検討に向けた市民意見等について

- ①長期計画市民会議報告書について
- ②無作為抽出市民ワークショップの実施報告について
- ③中高生世代広場の実施報告について
- ④職員アンケート結果について

企画調整課長が、下記資料について説明した。

- ・資料2「武蔵野市第六期長期計画市民会議報告書」
- ・資料3「無作為抽出市民ワークショップ報告書」
- ・資料4「武蔵野市中高生世代広場 実施報告書」
- ・資料5「第六期長期計画の論点等に関する職員アンケート（実施結果）」

【委員長】 まず、市民会議に参加された委員から補足意見などをいただきたい。

【D委員】 市民会議では、さまざまな考え方の市民委員 10 名とともに議論した。ただ、時間が短く、報告書と言えるような、市民会議でのまとまった1つの見解が出せる状態ではなかった。他の委員からも、この先の調整計画や第七期長期計画などで、もし今後も市民会議を行う場合には、会議のあり方を再検討したほうがいいのではないかとの意見が出されていた。

【A委員】 資料2の25～27 ページに、各委員が策定委員会に伝えたいことが書かれている。先にそこを読んでから、各項目を見ていただくと、各委員がどんな考え、どんな思いから意見を出したかがおわかりいただけると思う。

この市民会議は、先の財政計画のグラフを見た上で話し合っているため、財政的に厳しい将来であることを前提に話し合われているが、この策定委員会ではまた少し違う見え方になるのではないかと考えている。

市民会議では、私たちは行政から提示された形式に乗って意見を言うだけで、お互いのディスカッションはほとんどできなかった。この形を変えていこうにも、どこで議論すればいいのかわからない。計画をつくる時のプロセスをどう組み立てるのは大事なところなので、次回に向けて、今回の長期計画の中で若干でも議論できればと思っている。

【委員長】 市民参加のあり方は、どう意見を出していくか、いろいろと試していることの1つだと思うが、変えることもできるはずだ。検討課題である。

【A委員】 職員アンケートで、職員は何を見て各質問に答えているのか。回答するにあたって、配った資料があれば、教えていただきたい。

【企画調整課長】 今回のアンケートは、職層別を実施した。係長以上には、この長期計画について承知している前提で回答してもらったが、主任、主事には、長計に関する説明会を開催した上で、各分野の課題や分野を横断する課題についての資料を示して意見を寄せてもらった。その資料をベースに本日の資料を作成している。

#### 【B委員】

今回、この無作為抽出市民ワークショップに参加された市民の方、特に中高生世代広場に参加された方々は、武蔵野市の宝だと思う。この人たちとの関係を今回きりの話にする事なく、継続的にやりとりすることで、行政増えの参加意識を上げ、意見を頂戴しながら、そして将来の武蔵野市を支えてもらうように育成いただきたい。彼らは極めて大事な方たちだ。

2点目は苦言である。市の職員アンケートの回答率が25%というのは低過ぎる。市民にアンケートをかけ、ボランティアもさせて、委員を招請し、本気になってやろうとしているものに対して、中核にある市の職員のこの回答率の低さは、余りにも意識のギャップがある。ここの低さが、武蔵野市全体の大きな課題だとして認識いただきたい。

#### (4) 第六期長期計画における基本目標等について

企画調整課長が、下記資料について、説明した。

・資料6-1 「第六期長期計画における基本目標・基本課題・主要な論点

(素案 ver. 2)」

- ・資料6-2「基本構想・長期計画の目標と課題」
- ・資料6-3「基本構想・長期計画の重点事業・優先事業の変遷」

【委員長】 まず、説明に対する質問を受ける。

【A委員】 資料6-1が、事前送付されたものと随分変わった。これはどのような検討があって、このような変更になったのか。

【企画調整課長】 時間的な都合で、内部的な調整が済んでいないものを先週の段階で委員にお送りした。その後、さらなる調整の結果、お出ししたのが資料6-1である。

【B委員】 「目指すべき姿」は、誰が、どういうプロセスで決めたのか。これを前提に私たちは考えていくのか。あるいは、変えていくことができるものなのか。

【企画調整課長】 これは、あくまで事務局で積み上げてきた、たたき台である。何もないところでの議論は難しいので、出させていただいた。

【委員長】 では、基本目標・基本課題について、各委員から意見を述べていただく。

【E委員】 2点申し上げる。

1点目は、いただいた資料に、当初、災害対応が全く書いていなかったもので、そこは議論すべきだと思ったが、新しいバージョンには入っていることが確認できた。

2点目は、「目指すべき姿」について、今住んでいる市民の方が住み続けるということだけを考えるのか、という点である。武蔵野市は、20代は入ってくる人、出ていく人がともに多く、多摩に位置づいていながら23区的な特徴があり、単独世帯も5割いる、非常に変わった自治体だと思う。今住む人が住み続けるためだけではなく、流動層や、気軽に買い物に来る層にとっても魅力的なまちというのが大きなポイントになっている。学生のころは武蔵野市に住んで、その後、家賃が高くて他自治体に転出したが、また戻りたいという人もいると思う。住んでいる人だけをターゲットに対策を考えることには、疑問がある。生産人口が減っていくという予測も、入ってくる人をふやすことは考えていないように思う。そのあたりの検討はどうかということを考えていた。

【B委員】 私が提出した資料「策定委員会における提案」をごらんいただきたい。

今回の長計にしっかりと落とし込む必要があるものは、まず、「5. 武蔵野市の地域コミュニティ、地域アイデンティティ、地域インフラの構築」である。市の地方創生、地域活性化においては、地域のコミュニティをより強くつくることと、地域のアイデンティティ（愛着、誇り）をどう育てていくのか、それらが市民の中につくられていくための仕組みや教育プログラム、活動できる場となる地域のインフラをつくり上げていくこと、この3つの観点を踏まえることで、活力ある地方自治体として長く存在感を示していける。この観点をもって、長期計画の基本政策を考えていきたい。

「6. 経済政策」は、武蔵野市は今まで余力を入れてこなかったところでもある。「目指すべき姿」の「誰もが安心して暮らし続けられる 魅力あふれる活力あるまち」は、1700を超す地方自治体のどこもが掲げるものではないか。そこに、武蔵野市の特徴はない。「目指すべき姿」を目指す一方

で、新しい武蔵野市に憧れて、住もうと思う人たちに対して、武蔵野市はどういうまちなのかを伝える必要がある。また、武蔵野市のブランドイメージとして産業政策だとか経済政策のようなものも展開していくべきだ。

【F委員】 武蔵野市は、人口構造的に、他の市町村に比べて人口が増えている。ただ、武蔵野市に限らず、全国的な世帯構造の変化に伴い、これまで行政が様々な施策を検討する際の目安とされた「標準世帯」（夫婦2人と子ども2人の世帯を標準としたモデル）が減少している。このモデルのように主たる生計維持者とそれを補完的に支える人で子どもを育てるというモデルそのものが今、崩壊してきている。これからは、女性の単身世帯、特に高齢の女性の単身世帯が大きなウエートを占めるようになる。

「地域生活環境指標」の医療の項を見ると、医療機関はほとんど民間病院となっている。これは我が国全体がそうで、公的な医療機関が担うことのできる地域医療の範囲は狭くなっている。民間医療機関が減ると、医療環境は極端に悪くなる。また、介護は、介護保険法の施行に伴い、サービス提供において基本的に主体規制を撤廃したので、民間企業をはじめとして農協も生協もNPOもと、多様な主体が参画している。現在、国で進めている地域包括ケアシステムには、コミュニティベースドケア（Community Based Care）（地域の実情に応じて考えていこうというもの）と、インテグレートドケア（Integrated Care）（今まで縦割りだったものをいかに統合していくか、組み合わせしていくか）という、2つの大きな考え方がある。

これに伴い、介護分野においては、行政（官）と民間の関係も変わってきている。しかしながら、市民生活においては、民間のサービスを使うことは普通のことなので、介護や福祉の世界が特殊だったのかもしれない。

その場合、行政が一番難しいのは、民間サービスの「質」をどうコントロールするかである。ただでさえ難しい中であって、サービスの消費者たる市民目線でサービスの質を考えていかなければならない。防災についても全く同じことが言える。大規模災害の場合には、行政だけでは対処できない。このように垂直的な統合と水平的な統合、その両方をベースに、様々な課題について考えていければと思っている。

【G委員】 魅力的かつ活力のあるまちづくり、これは折しも今回の資料と一致している。

その次に私が重要視したいのは、世代や立場を超えた、つながりが強く、皆が住み続けたい地域をつくることである。「住み続けたい」ということの基本は、もちろん緑があるとか、防災を初め設備が整っているということもあるが、世代、立場を超えた人とのつながりということが大きい。

また、経済的に余裕があって、豊かなまちをつくるには、市がサービスを提供することによって儲けても、極端な話、私はいいと思っている。これらの考えが、B委員提供の資料の5と6とほとんど一緒だったので、驚いている。

【H委員】 まず、「目指すべき姿」の「誰もが安心して暮らし続けられる 魅力あふれる活力あるまち」は、やはり武蔵野らしさが感じられない。これは、どの自治体も、当然達成すべき姿として目指すのではないか。ニード（need）とウォント（want）という言葉があるが、本来「目指すべき姿」はニードではなく、そのもう一歩先を行ったウォントであるべきではないか。

私は、住民としてまちづくりにかかわる中で、働き方、子育ても含めて暮らし方が急速に変わって

いることを感じている。武蔵野市に住んでいる方は、9時－5時に都心のオフィスにいるという働き方が減って、フレキシブルな時間帯で、あるいは在宅で働いている。私自身もモバイルで働いている。そういう人たちが、まちの資源を使って、働いたり、支援し合ったり、交流し合ったりする新しい暮らしの姿を先導するまち武蔵野といった、過渡期から次の姿、次の暮らしを見せていく武蔵野市の気概を示すものにしたい。

基本目標があり、基本課題へといく際に、アプローチについての言及があってもよいのではないか。行政学の用語で「プロバイダーからイネーブラー」(provider-enabler)という言い方があるが、武蔵野市は豊かなので、これまで全部行政でやってきたというプロバイダーだった。これからは、市がコントロールしつつも、民間が上手に実力を発揮して一緒にやっていくというイネーブルができる環境整備と一緒に取り組んでいかなければいけない。PPP (Public Private Partnership) のように、アプローチの考え方も必要であり、この課題の書きぶりでは、市が行政としてすべてやるように見えてしまう。地域の新しいと言われる施策は、部局も官民も超えたプロジェクトではないのか。

基本課題の「健全な財政運営」は、必ずやっていかなければいけないところではあるが、そのためには税金をふやし、コストを下げるだけではなく、稼ぐ要素を入れていくという案の中で、PPPのような要素が入ってくるかもしれない。

「インフラの再整備」も、再整備だけではなくて、その先の新しい分野も一緒に考えると、また部局を超えてくる。

「市の魅力の発信」は、共有して、新しく生み出して発信していくなら、B委員がおっしゃられたブランディングのプロセスまで書き込まなければいけないし、そうすると、今の部局内でやれることではなくなってくる。

長期計画をつくって、これからの武蔵野市の市政の運営を考えるというのであれば、複合要素が入るような余地と書き方が欲しい。

**【D委員】** 学識経験者でもなく、民間有識者でもない市民委員として全体を見てまず思ったのは、市民とは、武蔵野市に住民票を置いている人だけなのかということだった。武蔵野市に在勤、在学している人も含むという定義づけが必要ではないか。子育てや学校は、武蔵野市に住民票を置いている人にとっては重要だが、防災やコミュニティなどは、在勤、在学の人も含まれる。

基本目標は「多様性が尊重される支え合いのまちづくり」とあるが、基本課題に多様性のことが余り書かれていない。多様性は、認め合うものなので、支え合いの中に含むのは、少し違うと思う。また、「まちぐるみ」の規模感がわかりにくく、何を支え合うのかがわからない。市民同士がまちぐるみで支え合うということであれば、支え合いを推進する前に、支え合おうという気持ちが育つような社会教育の充実が必要ではないか。

「担い手の確保と育成」は、「確保」が数合わせにならないか心配している。今、コミュニティでの人材の取り合い、消極的な参加や複属化で、1人が抜けると複数のコミュニティに同時に穴があくという問題が起きている。確保はさておき、発掘や育成に注力しないと、先細りが進む。

基本目標「つながり・コミュニティの豊かな市民自治のまちづくり」の基本課題「市民参加の推進」については、本当の意味での市民参加をぜひ推進すべきだと思う。ただし、市民参加による影響を受けとめる覚悟もしなければならない。そこで必要になるのが、やはり社会教育だ。

基本目標の「未来ある子どもたちを安心して産み育てられるまちづくり」の基本課題「保育の質の確保と向上」は、これからも大切に守り続けなければいけない大切な課題だと思う。武蔵野市は保育

の質が長きにわたり守られてきたが、小規模保育等では、施設が充実していないため、認可保育所ほど大規模な行事や運動ができず、保育の質に差が生じている。この差について、公立園や子ども協会立園がフォローし、埋めることができるような仕組みができないか、この長計で考えていきたい。また、幼稚園利用料の軽減、公園や児童館など年齢に関係なく利用できる遊び場の充実、放課後児童対策事業あそべえの環境整備などは、家庭保育、保育施設保育、どちらかに偏ることなく全ての児童・保護者にとっての保育の質の確保になる。

【A委員】 私は、第六期長期計画の全体について、3つの課題を考えている。

まず、「市民自治・市民参加・市民協働の促進」である。今、自治基本条例についての検討が進んでいる。市民自治の力をつけていくこと、市民参加を進めることが大事だが、私は、行政の方たちと協働して進めていくことも大事だと考える。そのためには、情報の共有と対話の活性化が必要になる。対話は、簡単にできるものではない。コミュニケーションにも練習が必要で、それはコミュニケーションを重視した子育てであり、子育てを通して大人も一緒に育っていくことが必要である。

課題の2つ目は、「住み続けられるまち」である。自助・共助・公助が言われて久しいが、公がどの部分を担い、共助の部分はどこなのか、仕分けしながら共助の部分を活性化していくといいのではないか。いきいきサロンのような試みを、高齢者分野だけではなく、障害や子育ての分野にも広げていけないか。

3番目は、「ゆたかなまちの維持・発展」である。武蔵野市の魅力は、他の委員も言うように、今ある豊かさと、これからの豊かさである。緑が多く、都市文化が魅力的で、サポートが充実し、コミュニティが発達しているところに、これからは起業、国際交流を進めていく。私は、公会堂の建てかえは、プレイスのような場所になるのがいいと思っている。魅力的な場所として高く評価されるものをみんなで考えてつくっていくというのは、みんなが元気になることだと思う。

また、これからの時代は、ゆとりも必要である。何かに追っかけられて暮らすようなことではなく、少し余裕を持って生きていけるまちを考えることで、ゆとりが持てる。

以上から、「基本目標、基本課題、主要な論点」としては、これから何かつくっていこうという気持ちがあるといい。

「公共施設、インフラの再整備」は、職員のアンケートにあったように、「再構築」という表現を使ったほうがいいのではないか。「整備」よりも、つくっていくという意欲がうかがえる。

職員と市民の協働を進めていく上では、職員が協働できるような体制をどうつくっていくかだと思いが、職員アンケートには、超過勤務が多過ぎるということが随所に書かれていた。大変な状況の中で、協働のためにエネルギーを使うことがなかなかできないのであれば、その体制をどう変えていくのか、整えていくのかを考える必要がある。

最後に、基本目標としての4項目とは別に、例えば「魅力のあるまちづくり」という項目を立てて、豊かさを新たに生み出すにはどうするのかということを入れていくといいのではないか。

【C委員】 私からは、3点申し上げる。

まず、A委員から質問のあった、「目指すべき姿」の修正前と修正後はどういう議論で変わったのかについて申し上げたい。修正前は「人口減少社会において選ばれ住み続けられる自治体」だった。武蔵野市は、直近5年間で人口が6,000人以上も増加しており、推計でも、全体で16万人を超えるとしている。にもかかわらず「人口減少社会において」とするのは、余りにも武蔵野市の現実と違う。

また、「選ばれ」という言葉も、上から目線に感じるという意見があり、この際、委員のご意見を伺おうということで、「素案 ver. 2」をご提案した。

2点目は、魅力のあるまちについてである。我々職員も、長い間、先ほどE委員がおっしゃったように、まず単身の20歳代に武蔵野市に住み、30歳代の世帯形成期に家賃・地代の安い周辺自治体に転出するというイメージがあった。しかし、人口推計では、20～30歳代はあまり減っていない。また、個人市民税の年齢区分別推移では、この10年間では30歳代が直線的に伸びている。30歳代の方々が多ければ、年少人口にも影響してくるので、全世代型あるいは多世代型の、魅力のあるまちをどうつくっていくかは、1つの大きなポイントになる。

3点目は、市民の皆さんがサービスの受け手という一方向ではないという点である。武蔵野市は、いきいきサロン、テンミリオンハウス、レモンキャブ、シニア支え合いポイント、子育てひろば等々、市民の皆さんがサービスの担い手になっていただくまちづくりをしてきたと思う。また、それを広げていかなければ、いつかは破綻する。狭い地域の中で、大型の施設をつくる時代ではなくなっている。小地域で、地域密着で、多機能で、複合的な機能の施設整備をしていく必要がある。

**【I委員】** 私は、庁内の議論の経過とは視点を変えて話をさせていただく。

今後のまちづくりをしていく上で、目標は、キーワードになる。この10年で何を背負うかを今の段階で選ぶのは難しい。皆さんと一緒に議論して、積み上げた中で選んだ言葉ではないからだ。

これまでの長期計画は、「自治と連携」「支え合い」「平和」「環境と共生」をまちづくりの目標に置いて構成されていた。今回の「目指すべき姿」は、今はまだ当たりさわりのない、どこでも使える言葉となっている。基本目標には、LGBT、インバウンド、外国籍の人口増といった「多様性」、コミュニティなどの「市民自治」、財政あるいは今後この10年で予想されるインフラの整備のための「持続可能」に、松下市政の大きなポイントとなる「子育て世代増への視点」の4つを置いている。しかし、これらを固定してしまうと、どうしても枠の中での議論になってしまうので、仮置きと理解している。暫定的なものから、今後、検討していく中で、前に押し出す言葉に変わっていけばいいと思う。

**【副委員長】** ブランディングであるとか武蔵野市らしさを打ち出すのは、よくわかる観点だが、我々に重要なことは、これがいいブランディングだと言うことではなく、ブランディングを策定するプロセスのあり方をこの長計でしっかり出していくことではないか。武蔵野市に既にあるさまざまなものの中のどれをブランドあるいは武蔵野らしさに持っていくのかだと思う。

目指すべき姿の「誰もが安心して暮らし続けられる」は、H委員も言うように、全く当たり前で、どこにでもあるものであるが、どこの自治体もできていない。そこで、目標としては、個々人のケイパビリティ（capability）、潜在能力の涵養が重要ではないか。例えば、子どもを抱える親御さんが大変な状況にあるのは、本人にまだまだできることがあり、それを発揮できる可能性がある状況にありながら、保育サービスなどのさまざまな支援が足りなくて、できることができなくなっていることにある。できないことを求めても意味がない。できることを可能にしていくことを、公共政策によって支えていく必要がある。

また、C委員が言われたように、これまで福祉サービスの受ける側は、あくまでサービスの受ける側にしかすぎなかった。いきいきサロンを幾つか回っていて感じるのだが、高齢者は今、単に体操を楽しんでいるだけではなく、お互いに声かけをし合いながら、自分のできる部分を見出している。支



え合いという、行政が市民に丸投げしているように聞こえるが、そうではない。高齢者だけでなく、障害者も子どもも、あるいは働く人のワークライフバランスも、できることを見つけ、再認識し、伸ばしていくという側面から考えていくといいのではないかと。

行政の効率性に関しては、これまで余り議論されてこなかった。これには、透明性を確保し、データを市民と共有することが求められる。今、クリエイティブな市民は多いし、データ分析できる市民もたくさんいるので、彼らがアイデアを出しやすい環境づくりをすることに、市の職員や執行部の方々は覚悟を持って臨んでいく必要がある。

**【委員長】** 私が言いたいことは、H委員が言った内容が一番近い。武蔵野市は豊かで、全てを行政がやると思い込んでいるし、やってくれていた。ただ、市民自治、市民参加、市民協働と言っている割には、市民協働の場づくりは下手なところがある。武蔵野市には、意欲のある人、こういうことでなら能力を発揮できると思っている人たちが多く一方で、それを担う環境整備ができていない。これは私が文化振興基本方針の策定を通して感じていたことでもある。「行政の効率化」という言い方が間違っただけで受け取られ、「行政がやるべきことを市民に丸投げしている」と言われてしまうのは不幸な話だ。基本目標と基本課題は、いろいろ決めても結局は全部行政がやらなければいけないこととして各課に落とし込まれるだけにならないように、確認をしていきたい。

きょうの各種の資料説明と、委員の所信表明とも言える意見を受けて、改めてどう調整していくかが、私たちの仕事になる。作業部会なども通して、みんながかかわりながらつくっていかねばいけないと思っている。

#### (5) その他

企画調整課長が、資料7をもとに、今後の予定について説明した。

**【G委員】** 「無作為抽出市民ワークショップ報告書」を初めて読んだ。おもしろい意見が載っているので、市の職員全員に、中高生ワークショップとあわせてぜひ読んでいただきたい。

**【D委員】** 武蔵野市中高生世代広場に参加した中高生の皆さんは、興味を持って参加してくださっている。この第六期長期計画の策定がこのように進んでいるという発信をして、今後にもぜひ興味を持って、いろいろ知ってもらいたい。

**【B委員】** 先ほど市職員のアンケートで4分の1しか回答していないと苦言を呈したが、武蔵野市の職員は忙しくて回答などしてられないのかもしれない。公務員には三六協定はないので、野放図になっているところがあると思われる。差し支えない範囲で、非公開でもいいから、今の市の職員の労働環境はどうなっているのか、データがあれば、一度ご説明いただいて、情報共有いただきたい。これから新しい市政を展開していくには、その担い手の一つである市職員には、そのための労力を切り出してもらう必要がある。しかし、現状、その余力がないのであれば、長期計画の設計と同時に、市職員の労働の適正化も図っていく必要があるだろう。

**【委員長】** 以上で第4回策定委員会を終了する。